

# はるかな尾瀬

## — 目 次 —

- 02 現地情報
- 03 平成25年シーズンの尾瀬についてのお知らせ
- 04 認定ガイドがすすめる とっておきの尾瀬
  - ①尾瀬には人の心を揺さぶるものがある
  - ②紅葉で尾瀬全体が燃え上がる様は圧巻です
- 05 尾瀬から学ぶスローライフ
  - 片品の新名物 水芭蕉焼き
- 06 エッセイ尾瀬好日
  - ①日本百名山の燧ヶ岳
  - ②私と尾瀬
- 08 尾瀬ボランティア情報
- 09 T O P I X
- 10 尾瀬保護財団からのお知らせ



2013.3 vol.21  
(財) 尾瀬保護財団



上空から尾瀬ヶ原と燧ヶ岳、会津駒ヶ岳を望む

# 原をわたる風だより



## 第2回冬期調査

平成25年3月12日～15日の日程で尾瀬ヶ原の冬期調査に行ってきた。積雪量が最大で4m程になる尾瀬では、山の鼻ビクターセンターなどの施設にも2～3m程の雪が積もります。(写真1)今回はこの雪の積雪量の調査と橋や屋根に積もった雪の除雪作業をしてきました。

今回はヘリコプターで尾瀬に向かいました。予定していた11日は、雪や風の影響でヘリコプターが飛ばず、中止になりました。明るる日12日は、曇一つない良い天気となりました。

初めて乗るヘリコプターに不安と好奇心を抱き乗り込みます。離陸すると、上空から見る尾瀬ヶ原に心を奪われてしまいました。(写真2)不安と時間を忘れ、食い入るように窓の外を見ているといつの間にか竜宮に到着していました。

尾瀬ヶ原に降り立つと辺りは誰も

いない真っ白な世界が広がっています。そこには無数の足跡があり、厳しい冬をたくましく生きている尾瀬の住人たちの暮らしぶりを見ることができました。(写真3)

尾瀬ヶ原では、公衆トイレなどの施設の点検と下ノ大堀川橋の除雪作業をしました。橋の三分の二程が雪で覆われており、積雪量も2mほどありました。橋桁を全て掘り出すのに90分程かかり、全身が汗でぬれしてしまうくらいの暑さでした。(写真4)



▲写真1



▲写真2



▲写真3



▲写真4

尾瀬ヶ原は、スキーに履き替えて移動しました。周囲3km以内人影はなく、時折吹く風や水の流れる音以外は何一つ音が聞こえてきません。まるで尾瀬を独り占めしている

かのよつで心が躍りました。

尾瀬ヶ原の巡視を終えて、ビクターセンターに到着すると、早速尾瀬の水をのどに流し込みました。徐々に飲む尾瀬の水は冷たさも増して、とてもおいしかったです。その後1時間程屋根の除雪作業をして1日目の作業は終了しました。

休憩を少しとると、今度は夕食の準備に取りかかりました。8人分の食事をガスや水道、電気の使用制限があるなか作るの、馴れていないということもあり、とても大変でした。

食事が終わり、慌ただしく食器を洗い終えると、一気に睡魔が襲ってきました。布団に入り込むと、22時前にもかかわらずいつの間にか眠りについており、1日目が終わっていました。

2日目と3日目は、ビクターセンター周辺で除雪をしました。2m以上ある雪の壁との戦いは肉体的に厳しく、掘り続けてもなかなか減らない雪には、自然の壮大さを思い知らされました。全身が汗でぬれる度に休憩をとり、作業を進めていくと、3日目までかかりましたが、何とか作業を終わらせることができました。最後はみんなで記念撮影をしました。全員作業をやりきったという

こともあり、とてもいい顔をしています。(写真5)

4日目はいよいよ下山です。帰りはスキー組とスノーシュー組に分かれて戸倉を目指します。最初の目的地は鳩待峠です。比較的平坦な所を歩いて向かいました。しかし、鳩待峠の手前にある石階段の辺りは、急斜面になっていました。シーズン中でも難所だと思っている所はいつ歩いても辛いといつこころを痛感しました。そんな急斜面を登り終えると、見慣れた風景が開けてきました。(写真6)



▲写真5



▲写真6

やっとここまで来たかと、胸をなで下ろし、目的地に到達した気分になっていました。しかし実際は全行程の3割程でしかありませんでした。先が長いことにシヨックを受けつつ再び滑り降りていくと、不安は徐々に払拭され、楽しくなってきました。上山当初、不安だった今回の作業は、楽しく終えることができました。



# 平成25年シーズンの

## 尾瀬についての

### お知らせ

#### 交通規制

○鳩待峠・沼山峠で交通規制が実施されます。

鳩待峠では116日間マイカー及び二輪車（オートバイなど）の規制が行われます。沼山峠ではシーズンを通して全車両（ただし、許可車及びシャトルバス等を除く）が規制されます（詳細は、尾瀬保護財団ホームページ等でご確認ください）。

#### 至仏山

植生保護の観点より、例年実施している残雪期の登山道閉鎖については、次のとおりです。

〈登山道閉鎖期間〉

5月7日（火）～6月30日（日）

その他にも、至仏山には利用に関する様々なルールがありますので、注意して利用してください（詳細は、尾瀬保護財団ホームページ等でご確認ください）。

#### 尾瀬山開き

開催日：5月23日（木）

開催場所：福島県檜枝岐村

※この山開きはセシモニーであり、周辺道路の冬期閉鎖が解除されるのは4月下旬です。春先の入山にあたっては十分な装備を整えてください。

#### ビジターセンター開所

○山の鼻ビジターセンター

5月12日（日）【予定】

○尾瀬沼ビジターセンター

5月23日（木）【予定】

#### 財団ホームページ

1 山ノ鼻ライブカメラの設置  
シーズン中、山ノ鼻地区のライブ映像をご覧いただけます。

#### 2 携帯サイトの開設

「今朝の山ノ鼻」を含む各種お知らせやライブ映像などを配信します（URL等については裏表紙をご覧ください）。

#### 3 ツイッターによる情報配信

ツイッターにより尾瀬情報などを配信しています。また、尾瀬の質問も受け付けて

います。ぜひフォローしてください（アカウント等については裏表紙をご覧ください）。

#### 尾瀬ハイキングガイド

尾瀬に初めて行かれる方や、何を準備したらよいかわからないといった方のために、「尾瀬ハイキングガイド」をご活用ください。尾瀬のマナーや地図、また装備品について掲載しています。尾瀬保護財団のホームページからダウンロードできます。なお、英語版・韓国語版・中国語版もあります。

#### 尾瀬認定ガイド

○ガイド依頼の際は、尾瀬認定ガイドかどうかご確認ください。

尾瀬の魅力、貴重さ、保護活動を伝え、安全や行程管理を行う尾瀬認定ガイドを、環境教育やエコツアーのガイドに是非ご利用ください。

尾瀬認定ガイドに関する問い合わせは、尾瀬ガイド協会事務局（尾瀬保護財団）までお願いします。

「登録者数」

・尾瀬自然ガイド 210名

・尾瀬登山ガイド 49名

（平成24年12月末現在）

その21 尾瀬には人の心を揺さぶるものがある (浅井理人 (尾瀬自然ガイド))

(尾瀬ガイドツアーズネット Tel 0241-65-1755 URL <http://www.aizu-ns.net/ns/>)

**A1** なんといつてもたくさんある花を楽しみます。尾瀬には約900種類もの植物があります。週ごとに花々が変わる花リレーも大変見事で、毎週行っても飽きない魅力が尾瀬にはあります。尾瀬で花を楽しむためには、ガイドと一緒に歩くことがオススメです。花の名前だけでもなく、尾瀬を知り尽くしたガイドの絶景スポットにも連れて行ってもらえますよ。

**A2** スバリ、会津駒ヶ岳です。特に、夏のハクサンコザクラが咲き乱れる会津駒ヶ岳がイチオシです。湿原をピンク色の絨毯のように染めるハクサンコザクラは一面の価値があります。また、登山口からの登りは厳しいですが、森林限界を超えたときの、眺望はまさに圧巻。素晴らしい眺めがあなたを待っています。山頂手前に駒の小屋がありますので、山小屋泊の登山ができるのも嬉しいポイントです。夏の会津駒ヶ岳にぜひ登ってみてください。

**A3** 雨の多い尾瀬では、雨具は必携の持ち物です。意外と目につくのがザックカバーをつけていない方が多いこと。ザックカバー一つで快適さが随分と変わりますよ。また、サイズの異なるジップロックも何枚か持って行くと非常に便利です。携帯や財布など、濡れたら困るものを入れたり、ニオイの

気になる弁当のゴミなどを入れたり。蓋の閉まる袋はこも重宝します。かさばるものではないので、リュックの片隅に入れてみてください。すぐに取り出せるように入れるとなお具合がいいですよ。

**A4** 尾瀬に初めていらした関西の70代の女性。2泊3日の山小屋泊で、鳩待峠から、沼山峠までをのんびりハイキング。ちょうどニッコウキスゲが湿原を黄色く染めている時期でした。尾瀬は昔からの憧れだったそうで、感動して涙を流されている姿が、今でも強く心に残っています。尾瀬には人の心を揺さぶるものがあるんですね。満開のニッコウキスゲと共に撮った写真は今でも宝物の一つです。

**A5** 尾瀬の楽しさや素晴らしさ、重要性を多くの人に伝えていくことが、尾瀬ガイドである私の目標です。そのために、尾瀬の魅力をとくさんの方に伝え、まずはお客様に尾瀬に足を運んでいただきたいと思っています。また、たくさんの方に尾瀬を楽しみ、尾瀬で癒されてもらいたいです。



[ガイドさんへの質問] Q1 尾瀬の楽しみ方、Q2 オススメの尾瀬スポット、Q3 尾瀬歩きに便利な道具・装備  
Q4 思い出のエピソード、Q5 今後の抱負・目標

その22 紅葉で尾瀬全体が燃え上がる様は圧巻です (中島正二 (尾瀬自然ガイド))

(みなかみ山岳ガイド協会 Tel 0278-72-2611)

**A1** 春の雪解けと共に咲くミズバシヨウ、それに続く花々、そして新緑。初夏からは、多くの花が咲き、鳥たちの声、トンボをはじめ昆虫たち。青い空には白い雲が流れ、それを写す池塘にはヒツジグサ、オゼコウホネが咲く。秋は山の上から紅葉がはじまり、尾瀬ヶ原に草紅葉がやって来ると、尾瀬全体が燃え上がる様は圧巻です。季節ごとに足を運んで楽しんでください。

**A2** 7月の尾瀬沼と大江湿原を黄色に染めるニッコウキスゲにため息の連続です。また、尾瀬沼の静かな湖面に映る燧ヶ岳の美しい姿が素晴らしい。お勧めコースは鳩待峠から尾瀬ヶ原を経て見晴の山小屋に一泊します。天候に恵まれれば、夜は満天の星空と、闇にはホタルが舞うのを見る事が出来ます。早起きして朝霧に浮かぶ尾瀬ヶ原をカメラに収めて、白砂峠を登り尾瀬沼周辺のニッコウキスゲを見て三平峠を越えて大清水まで一泊二日の尾瀬を満喫する事が出来ます。

**A3** ①木道を長時間スニーカーで歩くと足裏が痛くなります。楽しく歩くには、ウォーキングシューズをお勧めします。②双眼鏡を持って行くと、バードウォッチングやアニマルウォッチングを楽し

む事が出来ます。③尾瀬ヶ原で雷に遭遇する事ほど怖い事は有りません。空の様子が変だなと思った時は、ポケットラジオのAM放送を聞いてみてください。ラジオに雑音が入って来たら近くで雷が発生している事がわかり、いち早く避難が出来ます。

**A4** 女性のお客様をガイドした時の事でした。数年前に団体で2度ほど尾瀬ヶ原を訪れた事が有りましたが、その時の事は余り憶えていないとの事でした。「今回はガイドさんに案内して頂き、尾瀬が新鮮に感じ、こんなに楽しい尾瀬の旅が出来た」と喜んでいただく印象的でした。

**A5** これからも自然に対して好奇心を持って知識を深め、尾瀬を訪れるお客様に満足して頂き、再度訪れて頂ける様なガイドを末永く続けたいと思っております。



## 連載コラム

尾瀬から学ぶスローライフ

## 『片品の新名物 水芭蕉焼き』

取材協力＝片品村むらづくり観光課

村の産物屋かたしなや（群馬県片品村鎌田）



▲1個130円にて販売  
写真提供：むらづくり観光課

### 水

芭蕉焼きを作るきっかけ  
今年2月1日、群馬県側の玄関口となる片品村にて、住民の知恵を集め、村のシンボルの水芭蕉をイメージした菓子「水芭蕉焼き」の販売が始まりました。今回は、片品の新しい名物となった「水芭蕉焼き」について、むらづくり観光課の笠原さんとかたしなやスタッフ鍋木さんにお話を伺いました。

「片品は楽しめる場所はあるが、食べものとなるとこれといったものはありませんでした。何かシンボルとなるものがあればと地元でお菓子作りをしている主婦の方々や中学校の美術の先生らで型作りから始めました。小布施の福栗焼きのようなお菓子

### 水

芭蕉焼きのこだわり  
「地元産の食材にこだわり、風味をなくさないように心掛けました。花豆は、火のとおり具合により、生になつてしまいう度も失敗しました。ザゼンソウのように焦げて茶色なつてしまったことも何度もありましたが、試行錯誤して出来上がった時の感動は大きかった。」と水芭蕉焼



▲地元出身の大学生が作成したリーフレット（表面）

きを眺めながら嬉しそうに語る鍋木さん。  
その他にも、餡は自家製。火は電気ではなく、昔ながらのガスで焼き上げている。食材ごとに微妙な火加減が必要になるので、焼き上がるまでの30分〜40分は目が離せない。また、防腐剤は一切使用していないとのこと。作り置きはできない。冷めてもおいしいが、できたてがオススメとのこと。



▲手作りの過程がご覧いただけます  
写真提供：むらづくり観光課

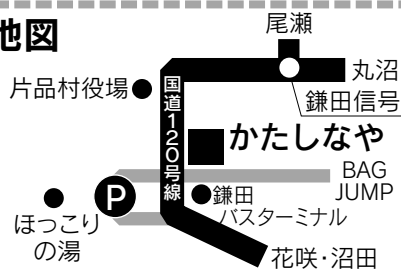
今後の水芭蕉焼きについて、お聞きしたところ、  
「1日に作れる個数には限りがありますが、量は産することよりも、今は地元の方で作りに上げた水芭蕉焼きの一つ一つを大事にしていきたい。よりおいしくするため地元の季節の食材を考えていきたい。片品村名物

### そ

他のオススメ  
かたしなやでは、地元のとれたて農産物や「尾瀬ブランド」商品を販売しています。食事でもできるカフェも併設しているので、尾瀬に行く際の休憩に利用できます。

今は、甘くておいしい冬季限定の雪下になじんジュースがオススメ。地元の皆さんの愛情をたっぷり詰め込んだ水芭蕉焼きと一緒に味わってみてはいかがでしょうか。

### 地図



村の産物屋 かたしなや  
電話：0278-25-4141  
群馬県利根郡片品村鎌田4085

○取材協力  
片品村むらづくり観光課  
村の産物屋かたしなや

エッセイ

## 尾瀬好日

奥只見郷

ネイチャーガイド顧問

桜井 昭吉

# 「日本百名山の燧ヶ岳」

尾瀬国立公園は地理・地形、動・植物、湿原、森林、山岳と変化に富んだ自然が多くの人に愛されている。この尾瀬には「日本百名山」に燧ヶ岳、至仏山、会津駒ヶ岳の三座がある。これを著した深田久弥は自ら登り、1964年（昭和39年）「日本百名山」を出版した。深田久弥の「日本百名山」は登山のガイドブックではなく山の文学である。その文章から深田久弥の尾瀬における視点が文学的で私のガイドに役立つている。

先ず至仏山では狩小屋沢から登り、尾瀬ヶ原に下って至仏山の印象を語っている。会津駒ヶ岳では6月の残雪期に登って帰りに登山道を見失い、上ノ沢を下って苦労したことが記されている。

「日本百名山」の燧ヶ岳は私がガイドで利用している。燧ヶ岳は尾瀬全体を見渡せる中央に位置する成層火山で、尾瀬沼や尾瀬ヶ原の特徴を文章であらわしている。燧ヶ岳の冒頭に「広大な尾瀬ヶ原を差し挟んで東西に对立している燧ヶ岳と至仏山。燧の颯爽として威厳のある形を敵父とすれば、至仏の悠揚とした軟らかみのある姿は、慈母にたとえられよ

うか。原の中央に立ってかれを仰ぎ、これを眺めると、対照の妙を得た造化に感歎せざるを得ない。」とある。私は尾瀬ヶ原牛首分岐のテラスで休憩をとり、ここでお客様にこう伝えている。



▲燧ヶ岳から望む尾瀬沼  
(H20.5.4筆者撮影)

沿山峠から大江湿原を通り尾瀬沼ビジターセンターや尾瀬沼をガイドすることが多い。このルートは尾瀬の歴史を語る話題が多く、その痕跡の一つは木道を整備してあるが沼田街道（会津街道）に面影が残っている。

尾瀬沼では、「尾瀬沼から燧ヶ岳をなくしたら、山中の平凡な一小湖に化してしまうだろう。」と、さらに深田久弥は「昔、関東と奥

州をつなぐ道の一つがこの沼のふちを通っていた。沼田街道と呼ばれるもので、上州の戸倉を最後として、会津の松枝岐に出るまで、全くの深い山の中の道であった。その心細い山道の途中で、山と沼と両々相映発した美しい風景にめぐりあった旅人の心持は、いかばかりであっただろう。」と、上州側の街道は三平峠にもその面影が残っている。20万分の1図で測ってみると戸倉から尾瀬沼まで15キロメートル。尾瀬沼から檜枝岐まで14キロメートルと、そのほぼ中間に尾瀬沼と大江湿原が広がっており旅人感嘆せしめた情景をお客様に伝えている。



▲沼山峠の登山道  
(H23.6.3筆者撮影)

エッセイ

## 尾瀬好日

尾瀬ボランティア

木村 哲 (No.872)

### 「私と尾瀬」

私が尾瀬に通い始めて約15年になります。きっかけは、仕事柄（コンピュータ関係）ストレスが溜まることが多く、気晴らしに日帰り一日歩きに来たのが最初でした。

初めて見る広大な湿原、湿原の中をどこまでも続く木道、木道の両側に咲き誇る水芭蕉やリュウキンカ。見るもの全てが初めてのもののばかりで、生まれた群馬県にこんな素敵な場所があるのを知って、感動して帰りました。

それからは、週末になると神奈川県秦野市から夜通し車を運転して早朝に尾瀬に着き、一日歩いてその日のうちにまた車を運転して帰る繰り返しでした。多い年には、年に25回（ほぼ毎週）へび通ったと記憶しています。今にすれば、よく体があったと思います。

その後、歩くだけの尾瀬から目的を持って歩くようになったのは、群馬県が実施した「98尾瀬クリーン大作戦」に参加してからです。群馬県庁の方1名と尾瀬ボランティアの方2名（残念ながらお名前を忘れてしまいました）の4名で、大清水から尾瀬沼までのコースを、ゴミを拾いながら歩かせていただきました。その時の尾瀬ボランティアの方

たちの活動を見て、こういう尾瀬との接し方もあるのだと知りました。



▲1998年の尾瀬クリーン大作戦にて (H10.10.18 筆者は右端)

もともと学生時代に公害防止関係の勉強をしていたので、自然保護には少し興味があったので、尾瀬でのボランティアを見つけては参加するようになりました。

一ノ瀬から岩清水までの林道の廃道に伴い実施したブナの植林を手始めに、東京電力が実施していたブナの植林に毎年のように参加をしていました。

その後、尾瀬ボランティアの募集をしているのを知り、私に出来るか不安はありましたが、平成18年に応募して研修に参加して、尾瀬ボランティアとしての活動が始まりました。もともと一人で歩くのが好きだったので、

最初は巡回清掃に参加する以外は、もっぱら一人で歩いてゴミ拾いをする自主ボランティアが主な活動でした。

活動をしていると、諸先輩の方々にも覚えていただき声をかけていただくことも多くなり、少しずつボランティアの方々や活動を行う楽しみを覚えました。約7年が経ち、今では入山口啓発、至仏山柵立てやお話ボランティアまでこなせるようになりました。

尾瀬は私に会社では学べない数々のことを教えてくれたと思います。

今年も尾瀬に感謝しながら、入山口啓発、至仏山柵立てや巡回清掃等に参加して行きたいと思っています。また、今年こそはまだ会えていない、オコジョや白い虹にも会いたいと思います。



▲昨年の至仏山柵立てにて (H24.6.23 筆者は後列中央)

# 尾瀬ボランティア情報

このコーナーは尾瀬ボランティアに登録されている方のためのページです。

## ●第17回尾瀬ボランティア総会を

開催しました●

17回目の尾瀬ボランティア総会を3月9日(土)に群馬県前橋市の前橋市民文化会館で開催し、59名のボランティアさんが参加しました。

総会に先立って、気象庁前橋地方気象台防災業務課長の萩原隆嗣さんに「山の気象について」と題して講

演をしていただきました。

講演では、雲や霧の発生の仕組みや高気圧・低気圧及び前線について説明いただきました。



▲ご講演いただいた萩原さん

後、実際に起きた遭難事故について、天気図などを交えて解説していただきました。また、入山前には、テレビやラジオ、インターネットなどを利用して気象情報を入力し、荒天が予想される場合は早めに中止の決断をすることが重要であることなどをお話いただきました。

ボランティアの皆さんもメモを取るなど、萩原さんの話に真剣に聞き入っていました。

総会では、東京都の長友重行さんを議長に、尾瀬保護財団から今年度の活動報告と平成25年度の活動計画を発表しました。

総会後は交流会を行い、ボランティアさんとスタッフが参加して交流を深めました。



▲総会の議長を務めていただいた長友さん

## ●平成25年度

### 尾瀬ボランティア活動計画●

平成25年度の活動計画を先日開催された尾瀬ボランティア総会で発表しました。活動初日は、5月18日(土)の鳩待峠と沼山峠で、10月27日(日)の至仏山東面登山道の柵倒しまでシーズンを通して現地での活動を行います。

活動計画はこの機関誌に同封していますので、ご確認ください。なお、活動計画の詳細や、活動計画をお送りした後に決まった事項などについては、機関誌や財団ホームページ内のボランティア専用ページに随時掲載します。2013年シーズンも積極的なご参加をよろしく願います。



▲交流会のようす



## 〇んまの自然の「いま」を伝える

### 報告会2012に参加しました

平成25年2月9日(土)に実施された「〇んまの自然の「いま」を伝える報告会2012」に参加してきました。この報告会は、群馬県内の各地で様々な自然保護の活動をしている団体が、一堂に会して互いにその活動を知り合いネットワークを深めるとともに、より多くの県民の方々にその取り組みを伝えるために実施されているものです。今回、尾瀬保護財団では、「尾瀬をまもる取り組み」と題して、財団の尾瀬保全に対する取り組みを中心としたポスター発表を行いました。

会場は群馬県富岡市にある群馬県立自然史博物館の学習室で行われました。参加者はおよそ200人程度でかなり活気があり、他団体の熱意が伝わってくるようでした。(写真1)



▲写真1

セラーの方の基調講演から口頭発表が始まりました。発表の内容は様々ですが、主に地域の方々を巻き込んだ環境保護活動の報告が多かったように思います。機器のトラブルで最初は話だけで始めたり、発表に熱がこもって制限時間を超えそうになりましたが、それぞれの皆さんの環境保護に関する取り組みを分かってもらいたいという強い思いが感じられました。(写真2)



▲写真2



▲写真3

前半の口頭発表が終わって、休憩時間を兼ねたポスター発表の時間が40分ほど取られました。ポスター発表は自分たちのポスターの前で閲覧者に解説をしたり、他のポスターを見て回ったりのカジュアルなスタイルです。今

回は高校生の発表があるなど非常に多くの発表があり、自分たちの発表の解説を行っている他団体のポスターをすべて見て回るのとは不可能なほどでした。(写真3) 皆さん力が入ったカラフルなポスターを作っていて、それらを見て回るだけでも楽しいことでした。尾瀬保護財団のポスターをじっくり見てくれる方もいて、ポスターでは伝えきれない実際の活動の様子などの話に花が咲きました。(写真4) 全体的には、野生動物の管理に関する取り組みに関する発表が多かった印象があります。

後半の口頭発表も熱の入った講演が続き、およそ200人の参加者は終了までほとんど帰る人はいませんでした。今回の参加を通じて、尾瀬だけでなく県内の様々な環境保護活動の取り組みを知ることが出来ました。この体験から得た情報や人的ネットワークを今後の尾瀬保護活動に有意義に使っていかうと思えます。



▲写真4



## 寄付のお願い

**尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております。**

当財団は、尾瀬国立公園において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を行ない、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与する活動を続けております。

### ◆個人住民税の寄付金控除の対象に尾瀬保護財団が指定されました。

個人住民税の寄付金税制の拡充により、各都道府県・市区町村が条例で指定した法人に対する寄付が、住民税の控除対象となるようになりました。尾瀬保護財団は下記の県・市・町から指定を受けています。(財団への寄付を行った翌年1月1日にこれらの県・市・町にお住まいの個人が対象となります。)

福島県、群馬県にお住まいの寄付者：個人県民税

福島県富岡町、群馬県前橋市、群馬県高崎市、群馬県桐生市にお住まいの方：個人県民税と個人市民税・町民税

### ◆また、尾瀬保護財団は「特定公益増進法人」に指定されており、当財団への寄付は所得税・法人税の優遇措置を受けることができます。

※なお、所得税、住民税控除の対象となる方には、領収書の送付時にご案内資料等をお送りします。

### ◆企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、下記の制度があります。

種類	条件	特典
特別協賛寄付	3年に渡る毎年30万円以上の寄付、または一時の100万円以上の寄付	①財団機関誌、財団ホームページに企業等名称、ロゴマーク、メッセージを1年間掲載 ②尾瀬国立公園ロゴマークの取扱要領に基づき使用申請ができ、許可後は無償で1年間使用 ③翌年度に作成する「尾瀬ハイキングガイド」に企業等名称、ロゴマーク、メッセージを掲載
協賛寄付	3年に渡る毎年10万円以上30万円未満の寄付、または一時の30万円以上100万円未満の寄付	①財団機関誌、財団ホームページに企業等名称を1年間掲載 ②翌年度に作成する「尾瀬ハイキングガイド」に企業等名称を掲載

■寄付につきましては、財団事務局（群馬県庁17階・027-220-4431）にご来訪いただくか、財団にご連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします。

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095
	福島銀行本店営業部	普通	0590088
	大東銀行福島支店	普通	1287138
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428
	東和銀行本店営業部	普通	0975531

新潟県	第四銀行県庁支店	普通	1182791
	北越銀行県庁支店	普通	0199366
	大光銀行新潟支店	普通	0837334

### 特別協賛寄付者のご紹介

※寄付日順、敬称略

**公益財団法人コメリ緑育成財団** コメリ緑育成財団様より50万円のご寄付をいただきました。コメリ緑育成財団様からのご寄付は、前身のコメリ緑資金の会様からのご寄付と合わせて、今回で4回目の寄付になります。今回を含め、今後新たに3年間に渡りご寄付をいただくこととなっています。

(通算寄付総額 2,000,000円)

寄付者からのメッセージ：当財団は、(株)コメリの利益の1%還元事業として1990年に設立した「コメリ緑資金」による緑豊かなふるさとづくりへの助成事業を引き継ぎ、2012年に公益財団として新たにスタートしました。私たちの住むふるさとが花や緑にあふれ平和で豊かであってほしいと願い、豊かな自然環境づくりや園芸農業分野における技術開発などへの助成を行っています。未来の子どものために、尾瀬の美しい自然と豊かな生態系がいつまでも引き継がれていくことを願っています。

**アサヒビール株式会社群馬支社** 47都道府県において、アサヒスーパードライ缶、ビン及びスーパードライ ドライブラック缶1本あたり1円を各都道府県の売上に応じて、環境関連等の団体に寄付するもので、平成24年秋の第6弾キャンペーンにより239万円余のご寄付をいただきました。

(通算寄付総額 23,079,617円)

寄付者からのメッセージ：アサヒビール(株)群馬支社では、地域との共生や地域貢献を目標に掲げ、2009年春より、アサヒスーパードライ「うまい！を明日へ！プロジェクト「尾瀬の環境保全活動」」をスタート。売上の一部を尾瀬保護財団へ寄付させていただいています。より多くの県民の皆様にご賛同をいただき、また、賛同いただくことで、県民の皆様とともに群馬県の環境保全を進めていきたいと考えています。群馬県の子供たちの未来のために、お役に立てただけなら幸いです。



2013年2月8日寄付



2012年12月25日寄付



2012年8月30日寄付

**DIAMアセットマネジメント株式会社** 今年度は269万円余りをご寄付いただきました。  
(通算寄付総額 20,079,749円)

寄付者からのメッセージ：尾瀬の美しく貴重な自然を後世に受け継ぐために今回の寄付金が有効に活用され、環境保全の一助となることを期待しております。DIAMはこれからも金融の仕組みを通じて、社会に貢献する資産運用会社を目指します。



2012年8月30日寄付

**株式会社第四銀行** 今年度は51万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額 4,553,882円）  
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるため、今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四銀行はこれからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



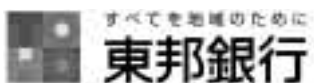
2012年8月30日寄付

**新潟証券株式会社** 今年度は9万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額 1,475,632円）  
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるために今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。新潟証券は第四銀行グループとして、これからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



2012年6月8日寄付

**株式会社群馬銀行** 今年度は95万円余りをご寄付いただきました。（財団設立当初からの寄付を含め、通算寄付総額 25,193,517円）  
寄付者からのメッセージ：信託報酬の一部が尾瀬保護財団への寄付となる仕組みの投資信託を取扱っており、多くのお客さまの善意の集大成を寄付させて頂きました。趣旨にご賛同頂き投資信託をご購入頂いた全てのお客さまに深く感謝いたします。



2012年6月7日寄付

**株式会社東邦銀行** 今年度は112万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額 6,959,117円）  
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けることを目的として、当ファンドの販売・運用を通じて地域社会の発展に貢献するとともに、広く尾瀬の自然を愛する皆様と共に力を尽くしていく所存であります。今後とも積極的にCSR（企業の社会的責任）を重視して取り組んで参ります。



2012年2月27日寄付

**ベisiaグループ** ベisiaグループ様より308万円余りをご寄付いただきました。ベisiaグループ様では、グリーン家電エコポイント及び住宅エコポイントの交換商品として商品券を提供しており、商品券交換金額の一定割合を、環境保全等を行っている団体等に寄付する制度のもとにご寄付いただいたものです。（通算寄付総額 11,474,488円）  
寄付者からのメッセージ：ベisiaグループは、「地域共生」を理念に自然環境保護にも積極的に取り組んでいます。今回の環境寄付に当たっては、当グループ発祥の地である群馬をはじめ、出店エリアの福島、新潟、栃木に広がる貴重な自然「尾瀬国立公園」の環境保全と適正利用を推進している尾瀬保護財団を選定させていただきました。群馬県が誇る豊かで美しい自然が、いつまでも多くの人々に楽しんでいただけることを、心より期待いたします。

協賛寄付者のご紹介

※寄付日順、敬称略

**株式会社フレッセイ**  
2012年7月10日寄付

フレッセイとキリンビバレッジでエコ基金を創設し、フレッセイの各店舗で販売されたキリンビバレッジの対象商品の売り上げ1本につき0.5円（両社で0.25円ずつ負担）をエコ基金に積み立て、その積立金を尾瀬の自然環境保護のため、30万円余りをご寄付いただきました。エコ基金からの寄付は、今回で3回目となります。（通算寄付総額 1,363,245円）

**キリンビバレッジ株式会社**  
2012年7月10日寄付

フレッセイとキリンビバレッジでエコ基金を創設し、フレッセイの各店舗で販売されたキリンビバレッジの対象商品の売り上げ1本につき0.5円（両社で0.25円ずつ負担）をエコ基金に積み立て、その積立金を尾瀬の自然環境保護のため、30万円余りをご寄付いただきました。エコ基金からの寄付は、今回で3回目となります。（通算寄付総額 1,156,508円）

**アサヒビール株式会社  
群馬支社**  
2012年7月5日寄付

尾瀬の自然環境保護のため、31万円余りをご寄付いただきました。これは、平成23年12月から平成24年3月までに利根郡内で販売された「アサヒスーパードライ」缶・びん1本につき1円をご寄付いただいたものです。（通算寄付総額 23,079,617円）

その他の寄付者のご紹介

※五十音順、敬称略

今井隆一、太田憲治郎、尾瀬山小屋組合、財団法人群馬県警察厚生会、群馬トヨタ自動車株式会社、公孫会北魚支部会員一同、小花光雄、小林帥男、坂倉正二、佐藤道磨、佐野亮平、鈴木輝夫、関本昇、登坂重夫、戸所英俊、株式会社ニチネン、NE X U S株式会社、野水尚子、藤生宗平、舩津光子、堀木紀美子、巻島秀男、村山盛繁、吉浦英利

イベント情報 ◆◆◆◆

第17回 NHK「わたしの尾瀬」写真展

【見附展】

○開催期間 平成25年4月10日（水）～17日（水）  
午前9時～午後6時  
○会場 ネーブルみつけ多目的広場  
（新潟県見附市学校町1-16-15）

【柏崎展】

○開催期間 平成25年5月8日（水）～18日（土）  
午前9時30分～午後6時（土・日曜日は午後5時まで）  
○会場 柏崎市立図書館2階展示ホール（新潟県柏崎市学校町2-47）

【イオンモール高崎展】

○開催期間 平成25年5月22日（水）～28日（火）  
午前9時～午後5時（22日は午後1時から）  
○会場 イオンモール高崎2階イオンホール  
（群馬県高崎市棟高町1400）

※見附展、柏崎展、イオンモール高崎展とも入場無料です。

編集後記

先日、第2回冬期調査で尾瀬に入山してきました。行きは、初めて乗るヘリコプターに緊張しましたが、天候にも恵まれ上空からの尾瀬を眺めることが出来ました。入山中も天候に恵まれ、青い空と白い雪のコントラストに感動しました。帰りはスキーで下山しましたが、除雪作業の筋肉痛に加え、鳩待峠への登りはとても大変でしたが、無事に下山することが出来ました。尾瀬はまだ雪深いですが、着実に春が近づいています。2013年シーズンも尾瀬で皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。（井）

## ミツガシワ（花期 6月－7月）

ミツガシワは、雄しべ雌しべの長さが異なる二つのタイプの花を別々の株につける。雌しべが短く雄しべが長い短花柱花、雌しべが長く雄しべが短い長花柱花だ。

短花柱花の花粉はハナアブの仲間の、あごや首につき長花柱花の雌しべの先に運ばれる。長花柱花の花粉はアブの口吻の中ほどについて、短花柱花の雌しべに運ばれる。このように雄しべ雌しべの長さを変えて、他のタイプの花粉を受けやすくし、自家受粉を避けているのだ。今年も、ミツガシワの雄しべや雌しべの長さにも注目しよう。

（フラワーエコロジスト 田中 肇）



## 『友の会』コーナー

「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援して下さる方々の集まりです。



年会費	○個人会員	1□ 2,000円
	○ユース会員（3月31日現在満22歳以下）	1□ 1,500円
	○家族会員（個人会員と同居の家族）	1□ 1,500円
	○賛助会員（団体・法人）	1□ 10,000円

## ☆友の会の会員期間は加入から1年です！

友の会の会員期間はご加入から1年間です。来シーズン尾瀬に行こうと考えられている方、いつ友の会に入られても、1年間フルに楽しんでいただけます。

## ★特典について

友の会に加入された方に次の特典をご提供させていただきます。

初回加入時：友の会会員バッチ進呈、各種資料送付

財団機関誌：年4回配布

宿泊割引：尾瀬戸倉、檜枝岐村周辺宿泊割引

（休日、祝祭日前等の除外日があります）

尾瀬周辺施設利用料割引等：対象施設等の詳細は、

尾瀬保護財団ホームページでご確認ください。

※賛助会員の特典は財団機関誌の送付のみ



oze mobile  
携帯サイト  
情報配信中

緊急情報  
お知らせ  
ライブ映像  
など

尾瀬の質問も受け付けています  
ツイッター  
尾瀬情報配信中

